

第6章 文化的景観における重要な構成要素

蘭島及び三田・清水の農山村景観は、有田川上流域の自然、歴史、生業、信仰が深く結びついた地域固有の文化を表象する景観である。蘭島及び三田・清水の農山村景観の形成やその価値を評価する上で必要な物件であり、以下の要件のいずれかに該当する本質的な価値を示す物件で、所有者の同意が得られた物件を「重要な構成要素」として特定した。

重要な構成要素の特定要件

- ①「文化的景観」の生活、生業、信仰を理解する上で重要なもの
- ②「文化的景観」の形成やその変遷を理解する上で重要なもの
- ③「文化的景観」の地域的な特性を理解する上で重要なもの
- ④「文化的景観」を活用する上で重要なもの

また、重要な構成要素の内、家屋については上記要件に加え、有田川上流域の典型をなす意匠・構造・間取り等をもつ伝統的な木造建築で、所有者の同意が得られたものを重要な構成要素として特定した。

今回特定した重要な構成要素の合計は、11種類212件となる。詳細は表11のとおりである。

蘭島の棚田	1件
旧牛小屋	1件
水田	189件
水路	1件
家屋	4件
神社・小社	5件
堂宇	4件
石造物	3件
水力発電施設	1件
河川	2件（2級河川）
頭首工	1件

表 11 重要な構成要素一覧

No.	名称	地区	所有者・管理者	備考
1	蘭島	西原地区	個人、有田川町	
2	蘭島の旧牛小屋	西原地区	個人	
3	水田	全地区	個人	
4	上湯	湯子川地区 西原地区	上湯水利組合	
5	西林家住宅	三田区	個人	
6	笠松家住宅	小峠地区	個人	
7	杉谷家住宅	西原地区	個人	
8	災害復興住宅	三田区	個人	
9	蔵王権現社	三田区	三田区	
10	金比羅権現社	三田区	三田区	
11	愛宕神社	三田区	三田区	
12	愛宕神社	小峠地区	清水区小峠番	
13	春日神社・愛宕神社	西原地区	清水区西ノ原番	
14	小峠地藏堂	小峠地区	個人	
15	松葉観音堂	小峠地区	清水区小峠番	
16	西原観音堂	西原地区	清水区西ノ原番	
17	東向観音	西原地区	個人	
18	笠松左太夫頌徳碑	小峠地区	清水区小峠番	
19	西原観音堂の石造物	西原地区	清水区西ノ原番	
20	フキの峠の地藏	西原地区	清水区西ノ原番	
21	関西電力三田水力発電施設 (旧南海水力第6発電所施設)	三田地区	関西電力株式会社	
22	有田川	西原地区 三田区	和歌山県	景観重要公共施設
23	湯川川	湯子川地区	和歌山県	景観重要公共施設
24	上湯用水路の頭首工	湯子川地区	和歌山県	景観重要公共施設

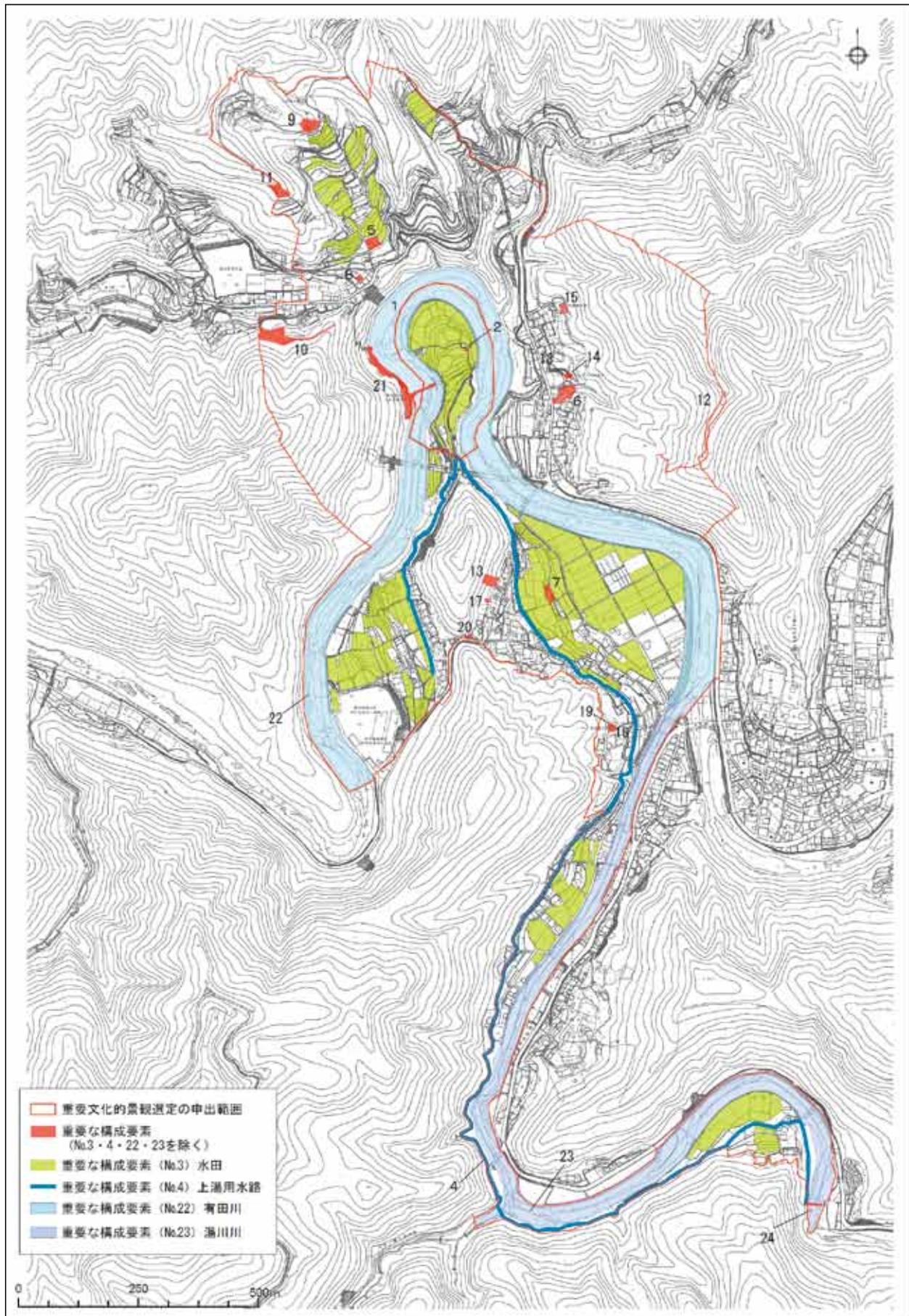
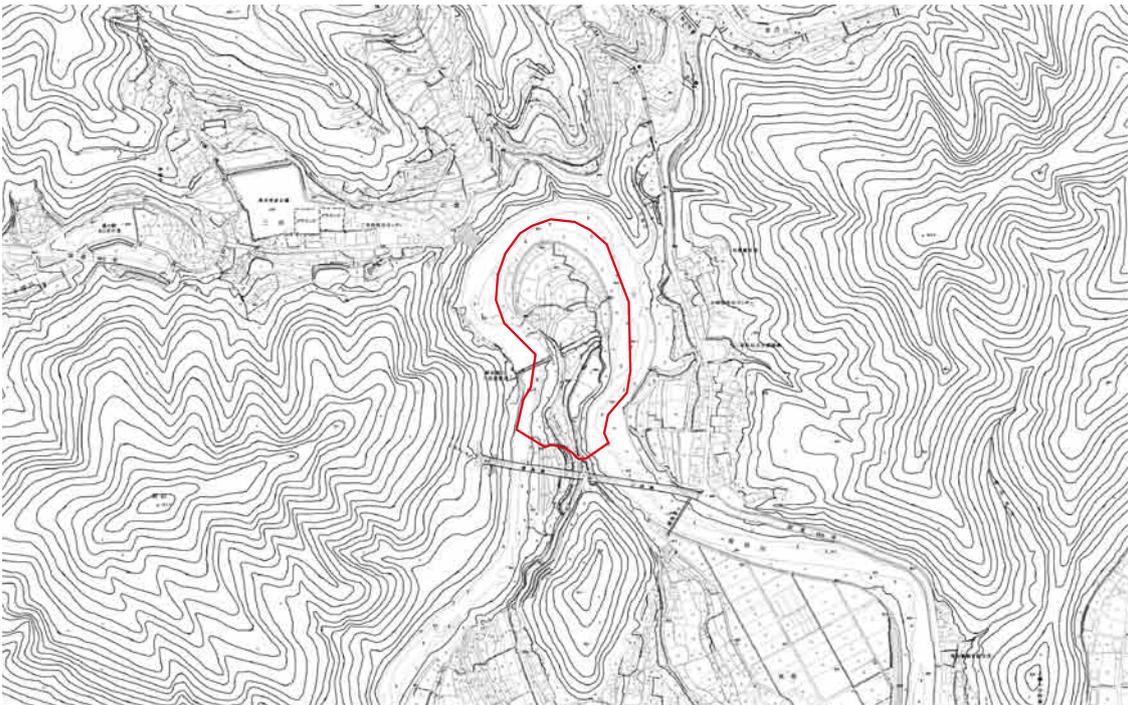


図 11 重要な構成要素の位置図

名 称	蘭島		
員 数	一件	面 積	28,668㎡（農地24,297㎡）
所在地	有田川町大字清水字蘭島1番地他		
所有者	個人、有田川町	管理者	個人、有田川町
概要	有田川の浸食作用によって形成された舌状の河岸段丘地形が水田化され、特徴的な棚田景観が生まれた。笠松左太夫によって行われた新田開発の一つであり、古文書史料により明暦元年（1655）という開発年代が特定できる希少な事例で、歴史的価値も高い。昭和28年の大水害によって、河川側の棚田が流出し、その後の農地復興によって現在の形状となった。		
文化的景観との関係	上湯用水路の受益地の一つである。河岸段丘を利用した伝統的な土地利用を顕在化する事例であり、文化的景観の中核的な構成要素である。		

写真



位置図

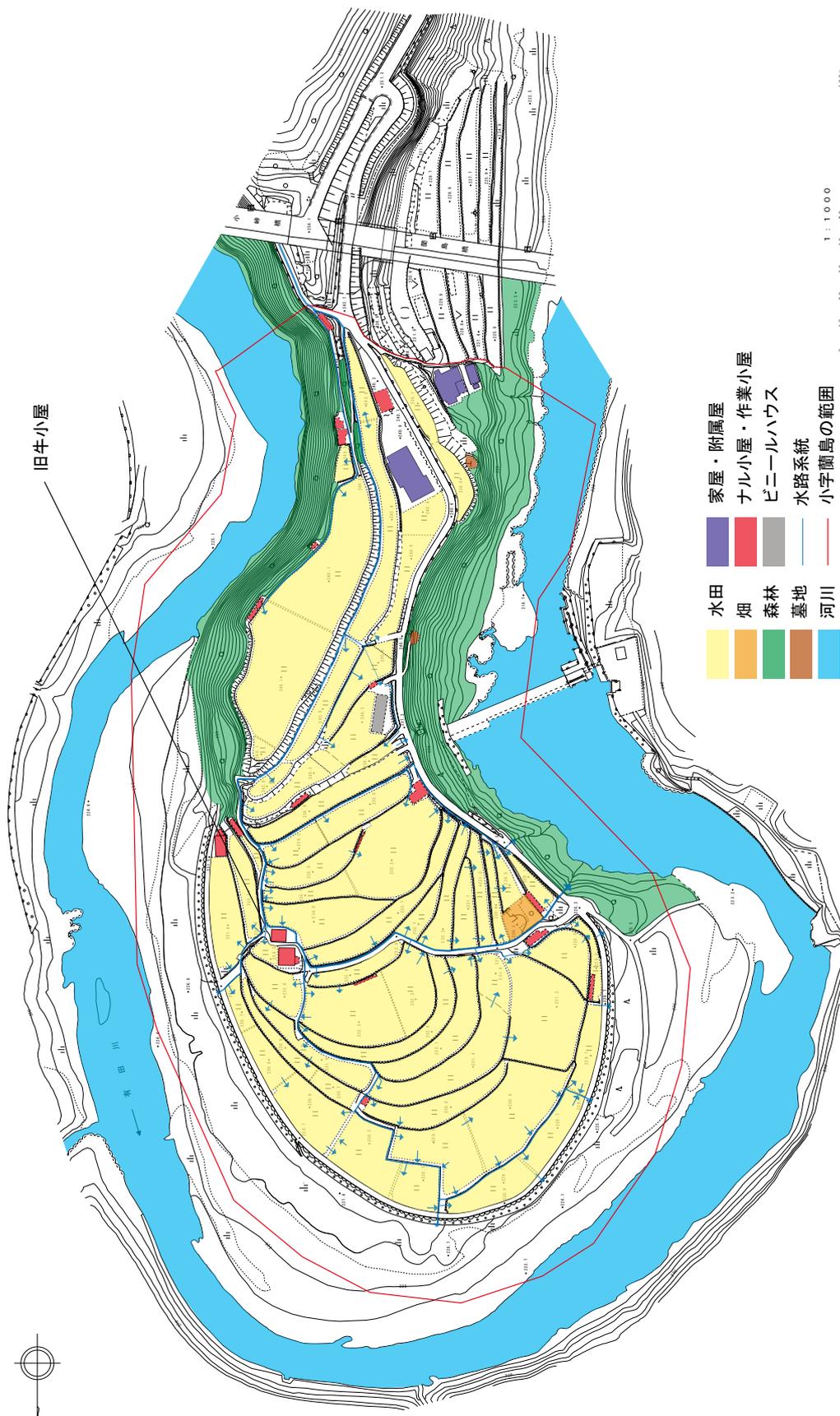


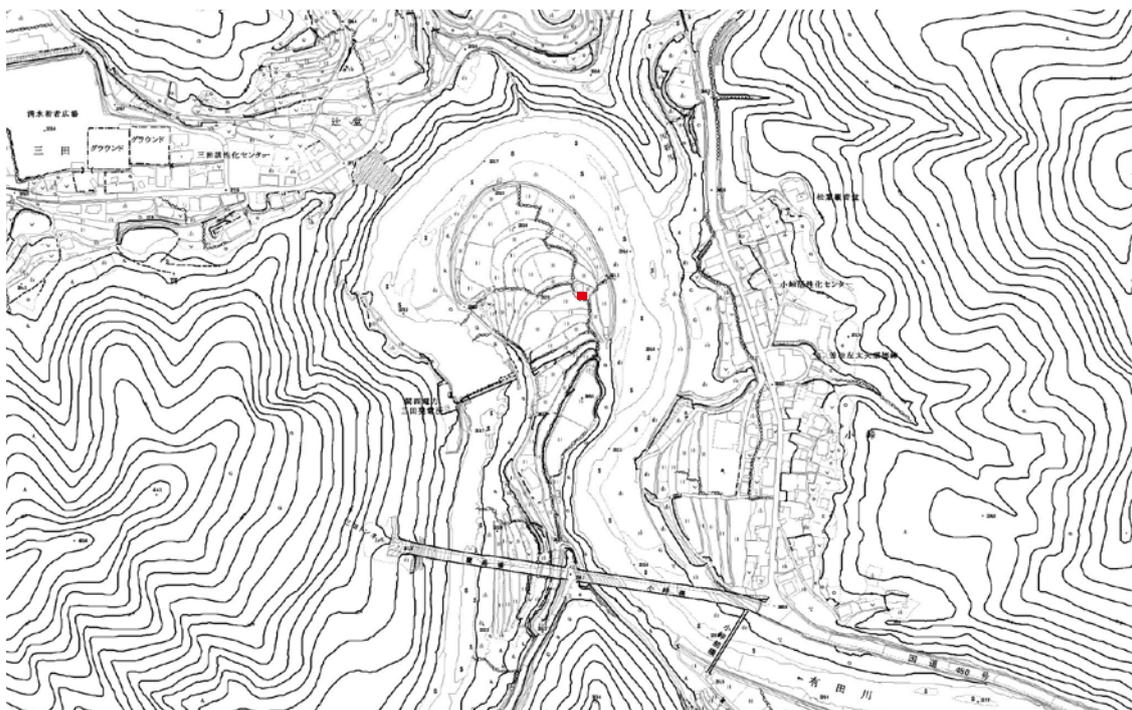
図 12 蘭島の現況図

名 称	蘭島の旧牛小屋		
員 数	1 棟	面 積	1,134㎡（建物25.96㎡）
所在地	有田川町大字清水字蘭島21番 1		
所有者	個人	管理者	個人
概要	蘭島において、昭和28年の大水害で流出を免れた唯一の建物である。農繁期になると、居宅から牛を運び、牛を飼育しながら営農を行っていた。かつての農業工程を物語るとともに、良好な景観形成に寄与している。		
文化的景観との関係	当地域のかつての農業工程を物語る事例であるとともに、良好な景観形成にも寄与している。		

写真



古写真（昭和38年）



位置図

名 称	水田		
員 数	一件	面 積	163,097㎡
所在地	有田川町大字清水字廣井原1471番地1他		
所有者	個人	管理者	個人
概要	有田川・湯川川沿いの河岸段丘を利用した蘭島、西原（湯子田・蘭向）、湯子川（湯子川・廣井原）の水田と、緩斜面を利用した三田区の水田がある。いずれも自然地形に沿って構築された当地域を代表する水田形態である。石積み、土坡が多く残されており、動植物の貴重な生息場所にもなっている。		
文化的景観との関係	当地域の生業に関わる主要な構成要素であり、当景観の維持継承を行う上で欠くことのできない要素である。		

写真



蘭島の水田



三田の水田



湯子田の水田



蘭向の水田



湯子川の水田



廣井原の水田

名 称	上湯用水路		
員 数	一件	面 積	総延長 3.2km
所在地	有田川町大字清水字廣井原地先他		
所有者		管理者	上湯水利組合
概要	<p>総延長3.2キロメートルを測り、有田川の支流である湯川川から取水し、現在は受益地約13.5haの範囲を用水している。笠松左太夫が開削した用水路の一つで、明暦元年（1655）という開削年代が特定でき、歴史的価値も高い。かつては土の水路で、春先には赤土を叩き締めて補修行う「はがね打ち」と呼ばれる共同作業が行われていたが、昭和28年の大水害後にコンクリートへと姿が変わった。</p>		
文化的景観との関係	<p>当景観の主要な構成要素である水田を維持する重要な構成要素である。</p>		

写真



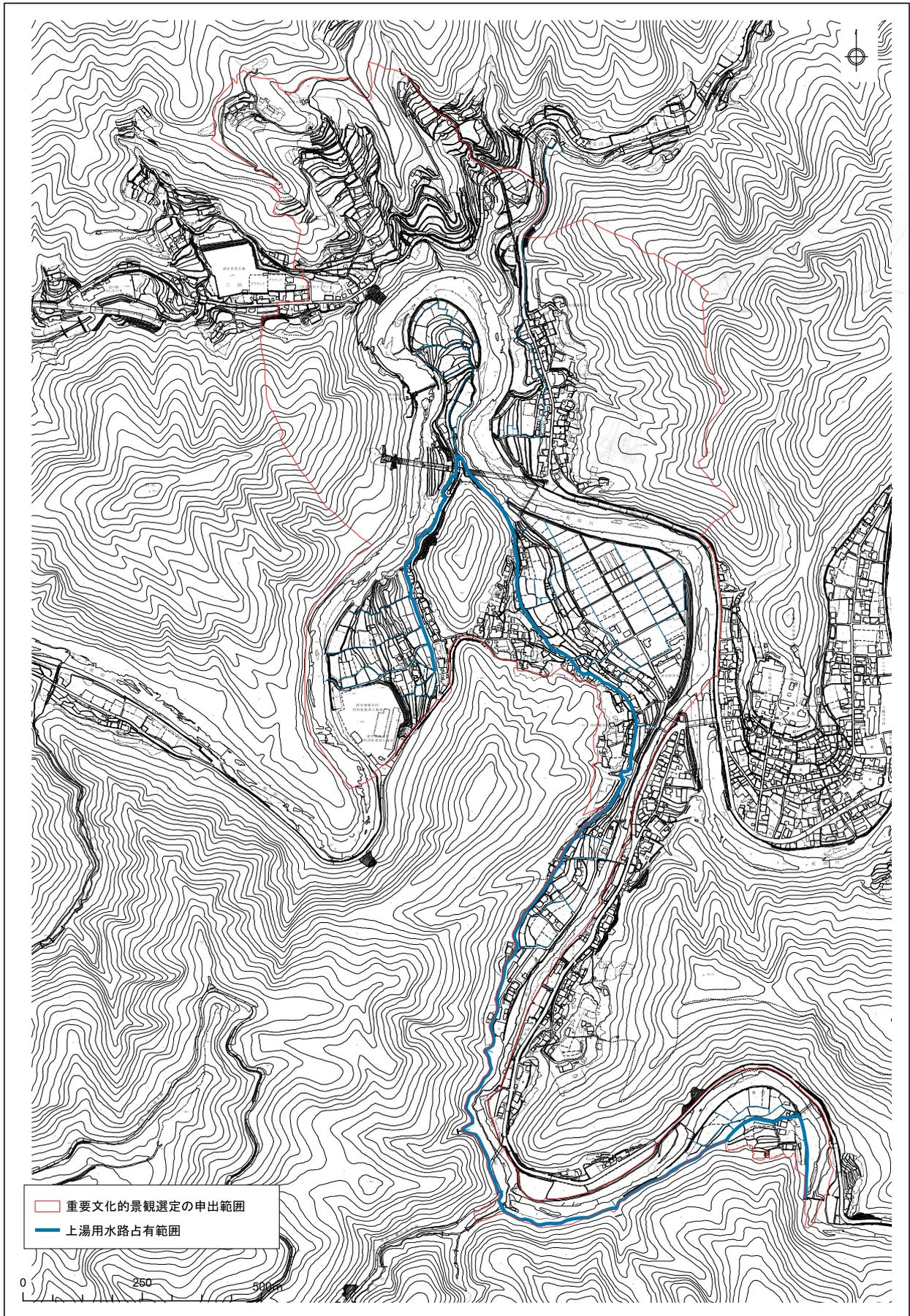
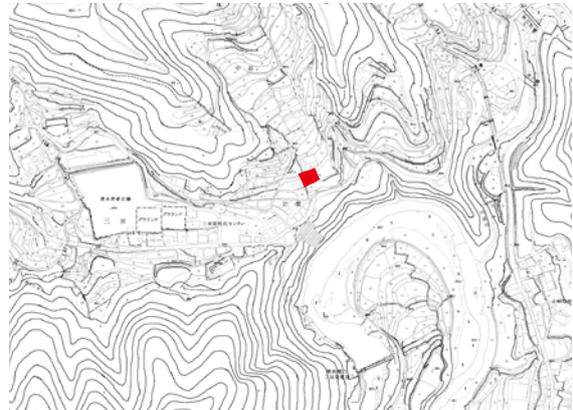


図 13 上湯用水路占有範囲図

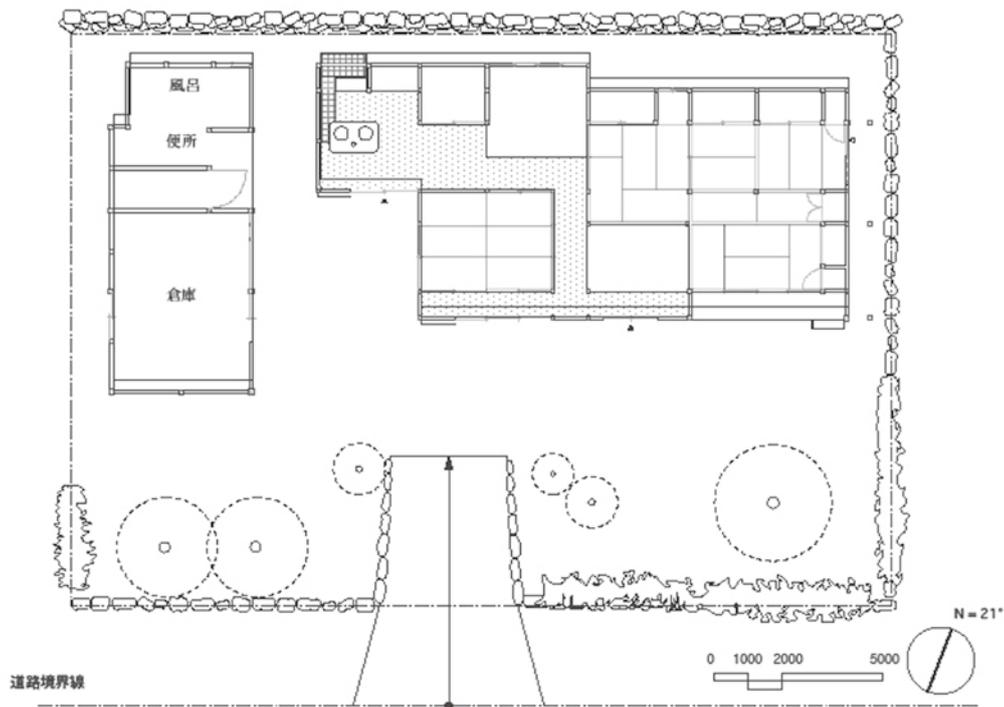
名 称	西林家住宅		
員 数	一件	面 積	553.40㎡
所在地	有田川町大字三田字若宮291番地1		
所有者	個人	管理者	個人
概要	<p>蘭島の視点場に隣接する茅葺きトタン張りの民家で、主屋とはなれの2棟からなる。主屋は西側に増築が行われ、屋根は一部瓦葺きとなっている。建築年代を特定する資料はないが、三田区を代表する伝統的民家である。</p>		
文化的景観との関係	<p>蘭島や国道480号線蘭島橋など南からの眺望において、良好な景観を形成している。視点場に隣接し、今後の活用を行う上でも重要な要素である。</p>		



写真



位置図



配置図

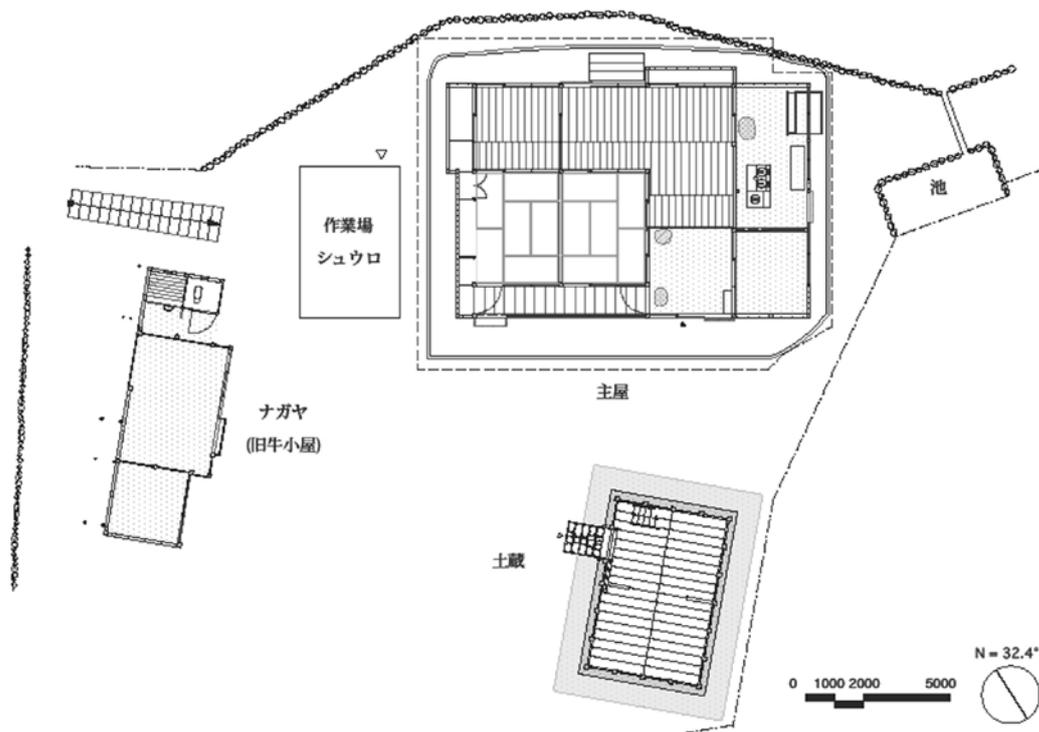
名 称	笠松家住宅		
員 数	一件	面 積	1,094.92㎡
所在地	有田川町大字清水字小峠上原144番地3、146番地		
所有者	個人	管理者	個人
概要	小峠集落の中央部に位置し、地区を代表する伝統的民家である。笠松左太夫の分家筋にあたる家筋で、敷地内には主屋、蔵、長屋、貯蔵小屋の4棟が建つ。現在の建物の建立時期は明治中期から後期とみられる。主屋の東側に隣接して水溜めがあり、洗濯や紙漉きに使用され、長屋ではかつて牛が飼われており、農機具庫や貯蔵庫として使用されていた。貯蔵小屋は昭和23～25年頃に棕櫚加工場として改修され、利用されていた。		
文化的景観との関係	当地域における家屋の敷地の配置や形態を良く残しており、かつての生活生業を理解する上で重要な要素である。笠松左太夫の頌徳碑にも隣接し、今後の活用面でも重要な位置を占める。		



写真



位置図



配置図

名 称	杉谷家住宅		
員 数	一件	面 積	503.88㎡
所在地	有田川町大字清水字和田1908番地		
所有者	個人	管理者	個人
概要	西原湯子田地区の段丘中位に位置し、約3mを測る高い石積みによって敷地が構築されており、主屋、納屋、蔵、旧牛子屋が建つ。主屋西面には吹き水（噴水）を溜める水溜めがあり、かつては周囲の民家にも供されていた。またこの水を利用して納屋では紙漉きが行われていた。主屋・納屋の建築年代は昭和30～40年代と新しいが、農業と紙漉きを副業とする当地域の伝統的な生業と土地利用を物語る例である。		
文化的景観との関係	家屋の敷地の配置や石積みが良好に残り、吹き水（噴水）の利用の実態や農業と紙漉きを副業とする当地域の伝統的な生活生業を理解する上で重要な要素である。		



写真



位置図



配置図

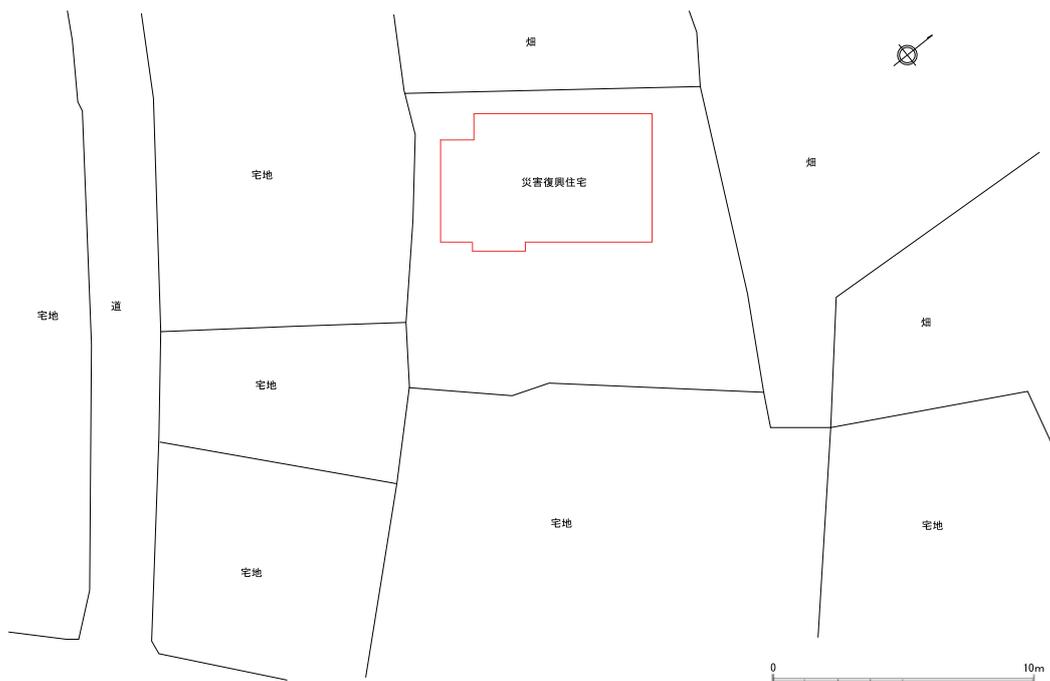
名 称	災害復興住宅		
員 数	1 棟	面 積	148.03㎡
所在地	有田川町大字三田字若宮375番地6		
所有者	個人	管理者	個人
概要	昭和28年の大水害後、復興施策として住宅関係では政府が建てた応急住宅、町村が建てた災害公営住宅、住宅金融公庫の融資を受けて、自力で建てられた復興住宅があった。この住宅は、この内の災害公営住宅である。木造平屋、切妻屋根で、屋根は改変されているものの、その他は建築当初の姿を留めている希少な事例で、往時の災害を伝える建築物である。		
文化的景観との関係	近代の景観変遷で最も大きな時代面期である昭和28年水害時の生活を物語る例である。度重なる災害と復興を経ながら維持継承されてきた当景観を理解する上でも重要な要素である。		



写真



位置図



配置図

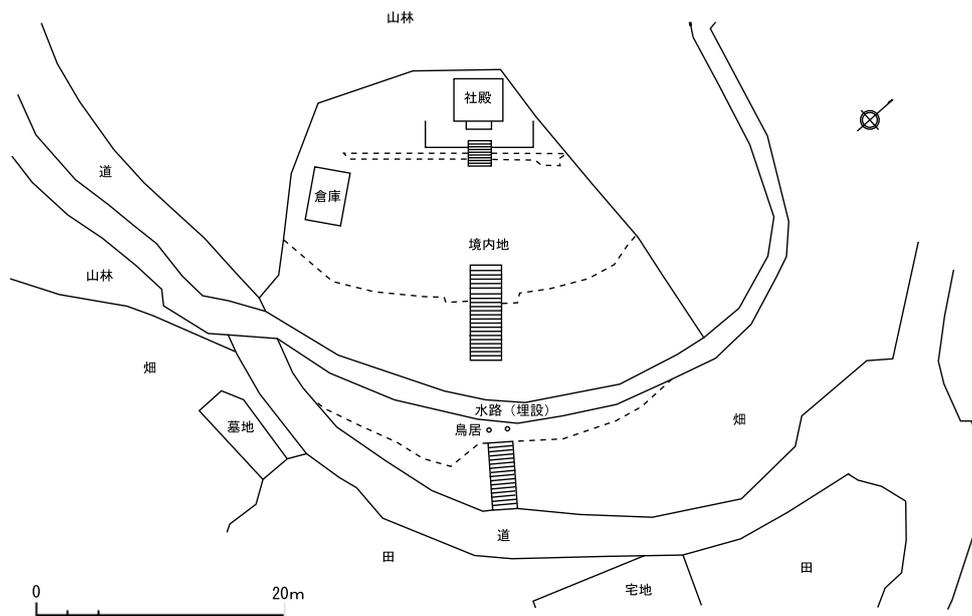
名 称	蔵王権現社		
員 数	一件	面 積	640.49㎡
所在地	有田川町大字三田字若宮265番地		
所有者	個人	管理者	三田区
概要	当文化的景観を眺望する視点場の北端に位置する。神社の由来については明らかではないが、天正年間に再建したと伝えられ、現在の社殿は文政年間の建立である。笠松左太夫が建設したと伝わる三田溝が境内のすぐ南側を通っており、その位置関係が注目される。御神体は中世後期の一石五輪塔で、参拝すると失せ物が見つかることで知られている。旧暦3月11日には餅まき会式が執り行われる。		
文化的景観との関係	視点場の北端に位置し、三田区の中でも古い段階から継承されている信仰空間であり、地域紐帯の核として重要な要素である。		



写真



位置図

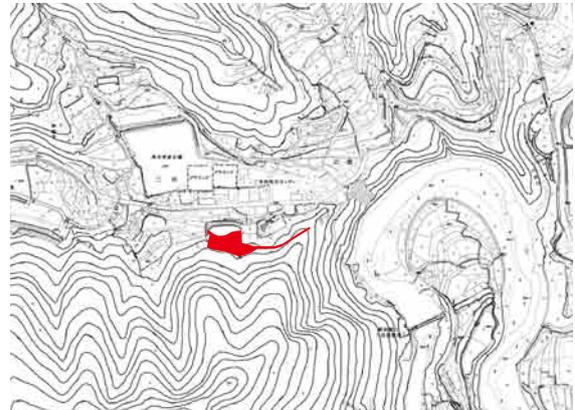


配置図

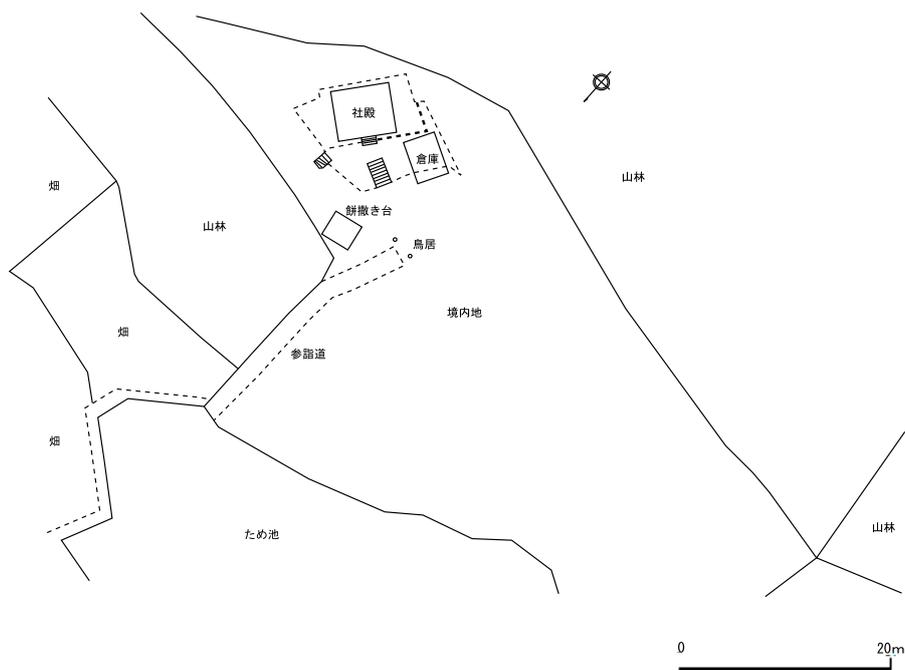
名 称	金比羅権現社		
員 数	一件	面 積	2,028㎡
所在地	有田川町大字三田字志坊谷424番地3		
所有者	個人	管理者	三田区
概要	<p>文政6年（1823）にこの地に勧請された。雨乞いの火焚き神事が行われたという伝承があり、昭和20年代まで有田川を利用した筏流しが行われていた当地域にあっては、木材関係者の信仰が厚く、戦時中は海軍関係者が参詣し、出征者を送る前日の晩には百度参りする人が多かったといわれる。会式は旧暦10月10日に行われ、現在はその日に近い土日に餅撒き会式が執り行われている。</p>		
文化的景観との関係	<p>有田川を利用した地域の生活生業を物語る要素である。また現在も継承されている信仰空間であり、三田区の地域紐帯の核として重要な要素である。</p>		



写真



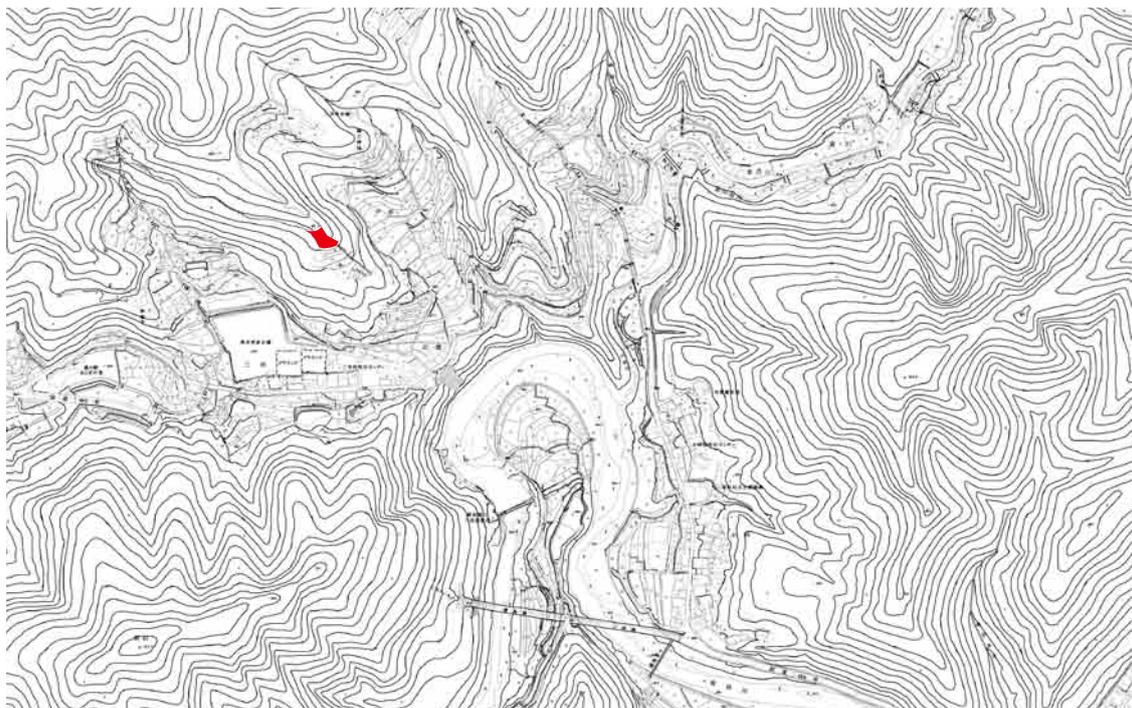
位置図



配置図

名 称	愛宕神社		
員 数	一件	面 積	654㎡
所在地	有田川町大字三田字山添526番地1		
所有者	個人	管理者	三田区
概要	三田区中谷集落の西側尾根の頂部に位置する。御神体は、京都愛宕権現の本地仏である將軍地蔵を祀っており、火除け、防火の守護神として信仰されている。將軍地蔵は勝軍地蔵とも云われ、勝負必勝を願う人々によって信仰を集めたが、かつては花札や博打を打つ人々が石仏の一部を打ち欠き、財布に入れていたという。そのためか、石仏の上部や側面は打ち欠かれた状態となっている。旧暦1月24日に、餅まき会式が行われる。		
文化的景観との関係	かつては、地区の花見などが催されるなど、良好な視点場であった。地域住民により継承されている信仰空間であり、三田区の地域紐帯の核として重要な要素である。		

写真



位置図

名 称	愛宕神社		
員 数	一件	面 積	198㎡
所在地	有田川町大字清水字小峠下原		
所有者	個人	管理者	清水区小峠番
概要	小峠城に登る道中にある。かつて、小峠地区に大火があり、その後に京都愛宕権現より勧請し、火除け、防火の守護神として祀られたという。毎年小峠地区の3軒が当番となり、輪番制で旧暦3月3日に近い日曜日に餅まき会式が行われる。かつて集落近くに移動されたが、火事が起こったため、元の位置に戻したという。		
文化的景観との関係	地域住民により継承されている信仰空間であり、小峠地区の地域紐帯の核として重要な要素である。		

写真



位置図

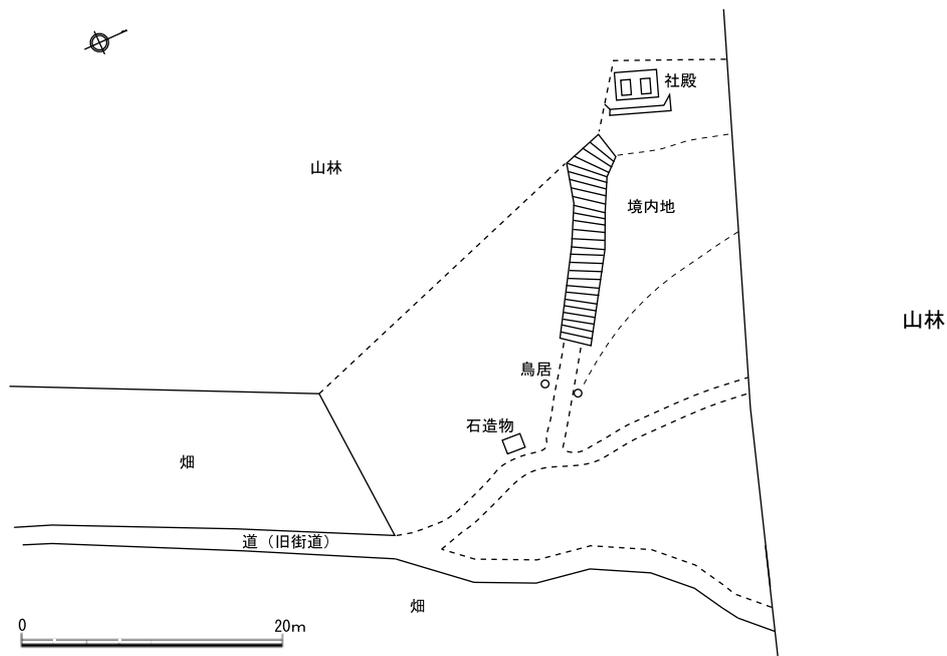
名 称	春日神社・愛宕神社		
員 数	一件	面 積	512㎡
所在地	有田川町大字清水字城山1844番地		
所有者	個人	管理者	清水区西ノ原番
概要	西原地区の産土神であり、南側に春日社と北側に愛宕社の両社が並んで祀られている。神社の位置する城山は、春日山とも呼ばれ、山上に中世城郭があり、春日神社南隣は館跡の存在が推定されている場所である。春日神社では、西原地区の住民により毎年11月23日に亥の子行事として餅まき会式が行われている。		
文化的景観との関係	西原地区の氏神として、地域住民により継承されている信仰空間であり、地域紐帯の核として重要な要素である。		



写真



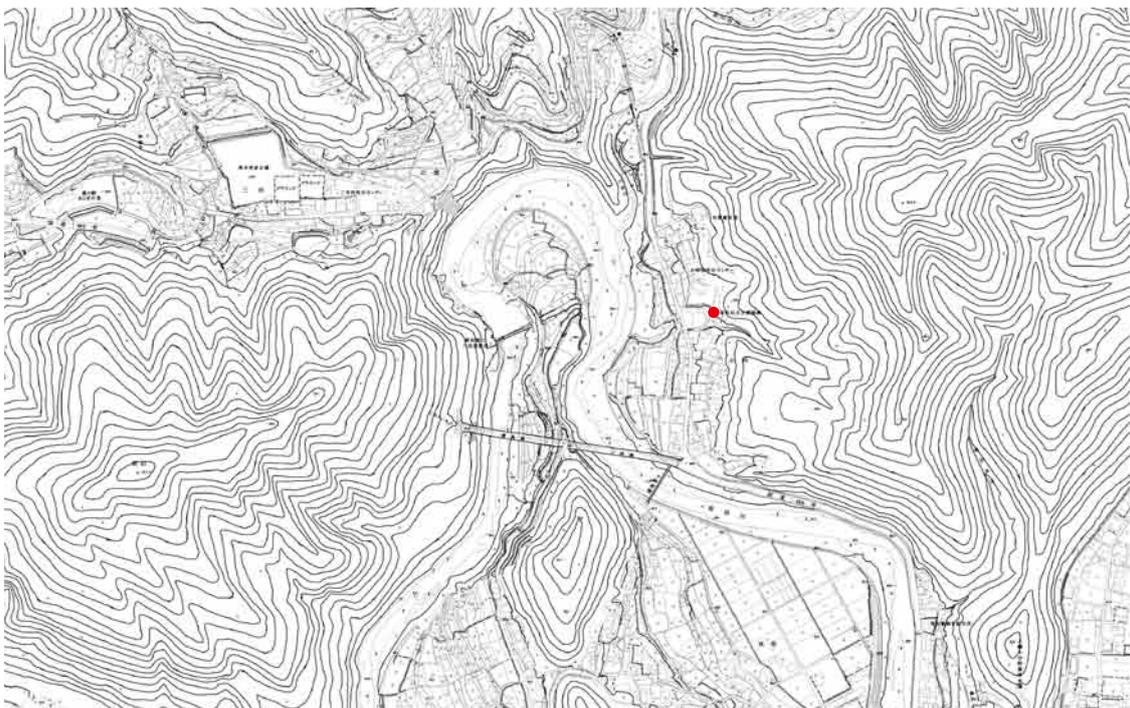
位置図



配置図

名 称	小峠地蔵堂		
員 数	一件	面 積	411.78㎡
所在地	有田川町大字清水字小峠下原131番地2		
所有者	個人	管理者	個人
概要	小峠集落の中央に位置し、昭和2年の笠松左太夫頌徳碑建立にあたり、現在地へ移設された。地蔵堂の由来は、清水城落城に際し落人が山中で自害した霊を弔うためとも、亡霊が出たためにそれを弔うためとも伝えられる。中尊の地蔵坐像は元禄6年（1693）小峠地蔵講による建立で、堂内には合計17体の石仏が祀られている。近年は耳地蔵としても信仰が厚く、堂内には孔のあいた石や奉納者が孔を空けた石が納められている。		
文化的景観との関係	小峠集落の歴史や成立経過を理解する上で欠くことのできない要素である。また、今も信仰物として地域に根付いており、当地域の信仰を理解する上で重要な要素である。		

写真



位置図

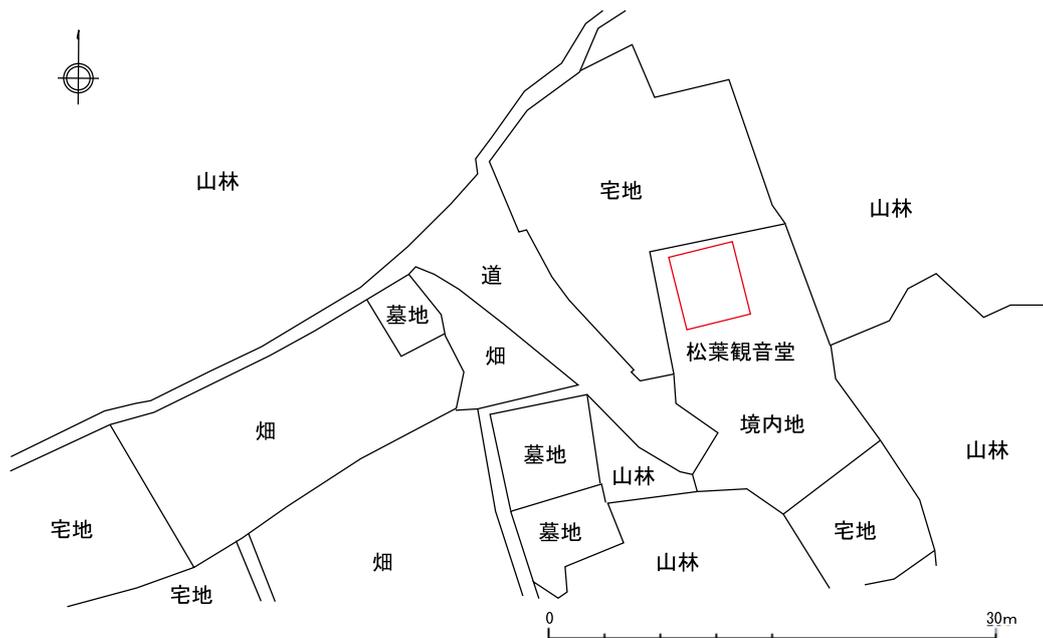
名 称	松葉観音堂		
員 数	一件	面 積	280.04㎡
所在地	有田川町大字清水字小峠下原111番地1		
所有者	個人	管理者	清水区小峠番
概要	「松葉堂観音御由来縁起」によれば、祖父笠松左太夫の発願を受け継いだ笠松惣兵衛宗清が、安永6年（1777）に観音堂を建立したとされ、現在の建物は昭和60年12月に建替えられたもの。本尊は聖観音立像で、地元では泉州水間観音の姉仏という伝承がある。初午会式は安永7年（1778）2月8日より始まった伝統ある年中行事で、周辺部の中でも規模の大きな投げ餅会式であり、厄除け祈願に多数の参拝者が訪れる。		
文化的景観との関係	小峠集落の地域共同体の紐帯として重要な要素である。初午会式は、周辺地域でも古い形態を留めた作法がみられ、当地域の信仰形態を理解する上で重要な要素である。		



写真



位置図



配置図

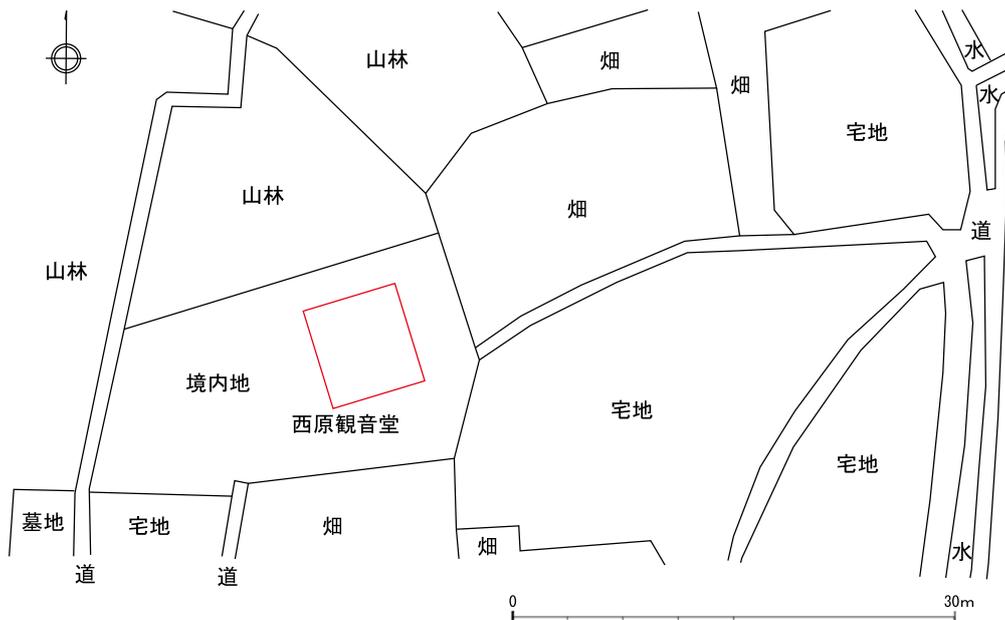
名 称	西原観音堂		
員 数	一件	面 積	185.12㎡
所在地	有田川町大字清水字堂垣内1998番地		
所有者	個人	管理者	清水区西ノ原番
概要	棟札の記述によれば、元は極楽寺という寺院が現境内の西側山中にあったが、焼失し、現在地へ移されたという。茅葺き、トタン張り、縁付きの小規模なお堂で、現在の建物は棟札から享保8年（1723）の建立である。本尊は千手観音坐像で、現観音堂の建立と同時代の作。旧3月3日の節句には会式が行われ、かつては餅撒きが行われていたが、20年程前から供物は地域住民の持ち寄りとなり、お菓子が大半となっている。		
文化的景観との関係	西原集落の地域共同体の紐帯として重要な要素である。会式は節句の行事で、当地域の信仰形態を理解する上でも重要な要素である。		



写真



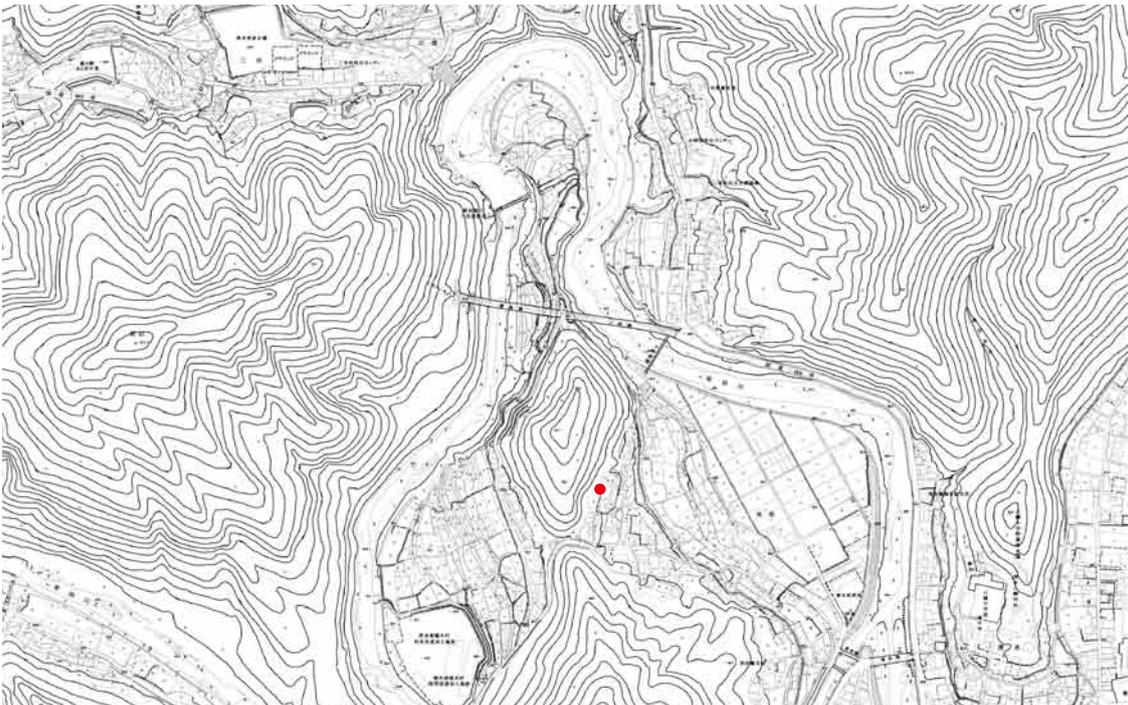
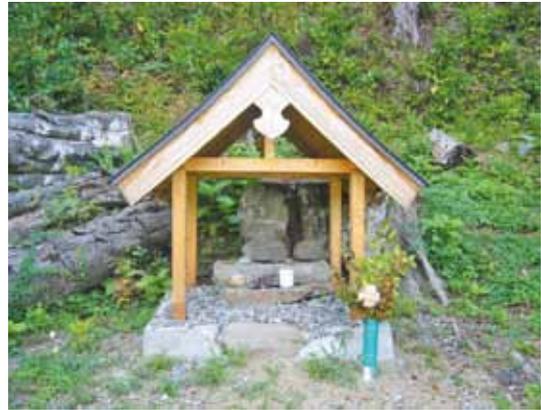
位置図



配置図

名 称	東向観音		
員 数	一件	面 積	351㎡
所在地	有田川町大字清水字弓場垣内1890番地1		
所有者	個人	管理者	個人
概要	かつてはカシの巨木の樹洞に祀られていたが、平成23年の台風12号によって倒壊したため、新しく木製の小社が建てられた。御神体は、石造の観音菩薩坐像である。地元では、お参りすればトントン拍子に事が運ぶと伝えられている。春日神社やフキの峠の地蔵と並び、中世城郭が位置する城山を取り囲むように位置する地域信仰物の一つである。		
文化的景観との関係	カシの巨木に触れば災いがあるという伝承があり、古くから地域住民により保護されてきたもので、当地域の信仰を理解する上で重要な要素である。		

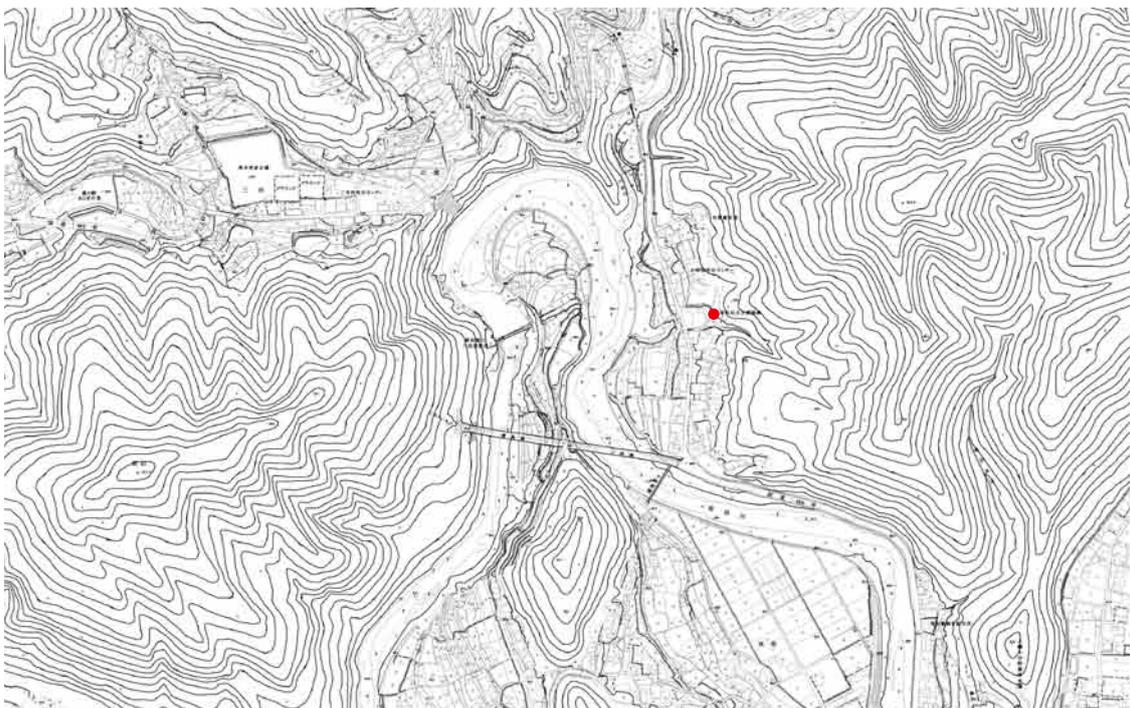
写真



位置図

名 称	笠松左太夫頌徳碑		
員 数	一件	面 積	19㎡
所在地	有田川町大字清水字小峠下原133番地		
所有者	和歌山県	管理者	清水区小峠番
概要	江戸時代の山保田組初代大庄屋で、私財を抛って数多くの灌漑水路を開削し、蘭島をはじめ数多くの新田開発に取り組み、小峠に隠居した万治年間（1658～1661）には吉野から紙漉工を連れ帰り、小峠地区を紙漉き村として開拓し、現在まで続く保田紙を創始した笠松左太夫の功績を讃え、海瀬亀太郎が発起人となり、清水村長、小峠の住人によって昭和2年建立された。石材は三田の僧の谷から運ばれたものが使用されている。		
文化的景観との関係	当景観の基礎を築いた笠松左太夫の功績を示す場所であり、当地域の歴史や景観を理解する上で重要な要素である。		

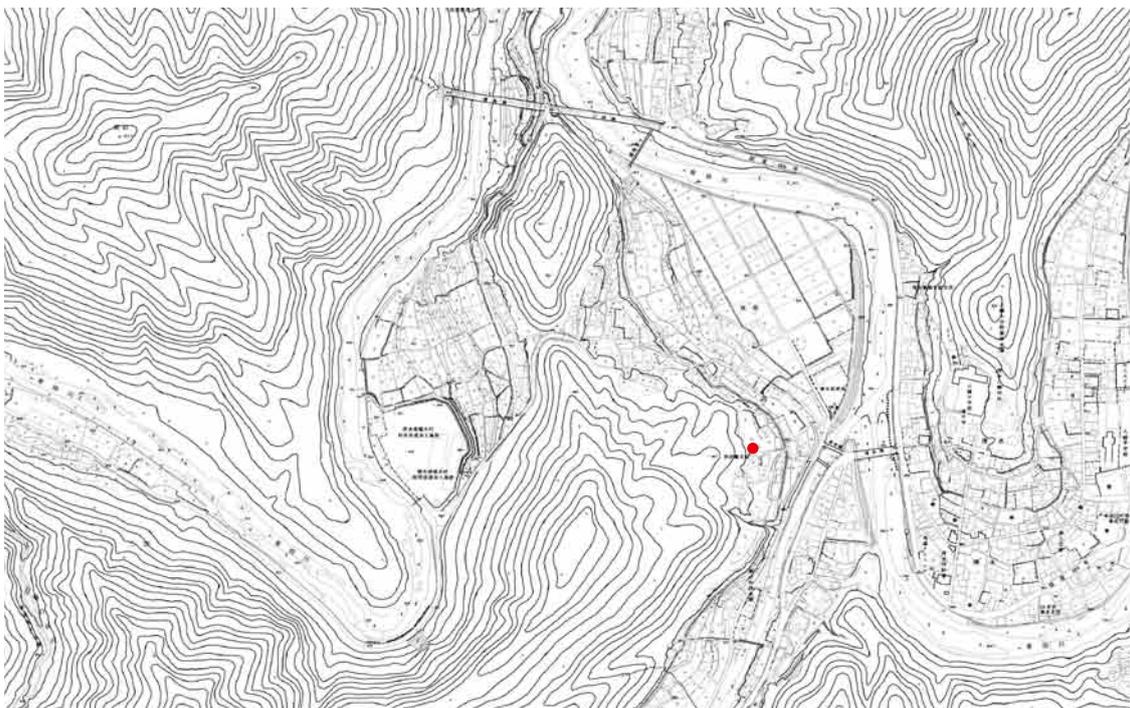
写真



位置図

名 称	西原観音堂の石造物		
員 数	一件	面 積	185.12㎡
所在地	有田川町大字清水字堂垣内1998番地		
所有者	個人	管理者	清水区西ノ原番
概要	西原観音堂の北側にあり、周辺部から集められた石仏、庚申塔、五輪塔、宝篋印塔などが祀られている。永享4年（1432）の紀年銘がある五輪塔の地輪は、現状では宝篋印塔の部材と組み合わされているが、阿氏河荘域に遺る石造物では最古の紀年銘資料である。この他、中世に遡る石造物としては、緑泥片岩を用いた宝篋印塔の残欠があり、類似するものが西原フキの峠にある石仏の基壇に使用されている。		
文化的景観との関係	永享4年（1432）の紀年銘がある五輪塔をはじめ、西原地区の中世段階の開発を証明する要素であり、当地域の歴史を理解する上で重要な要素である。		

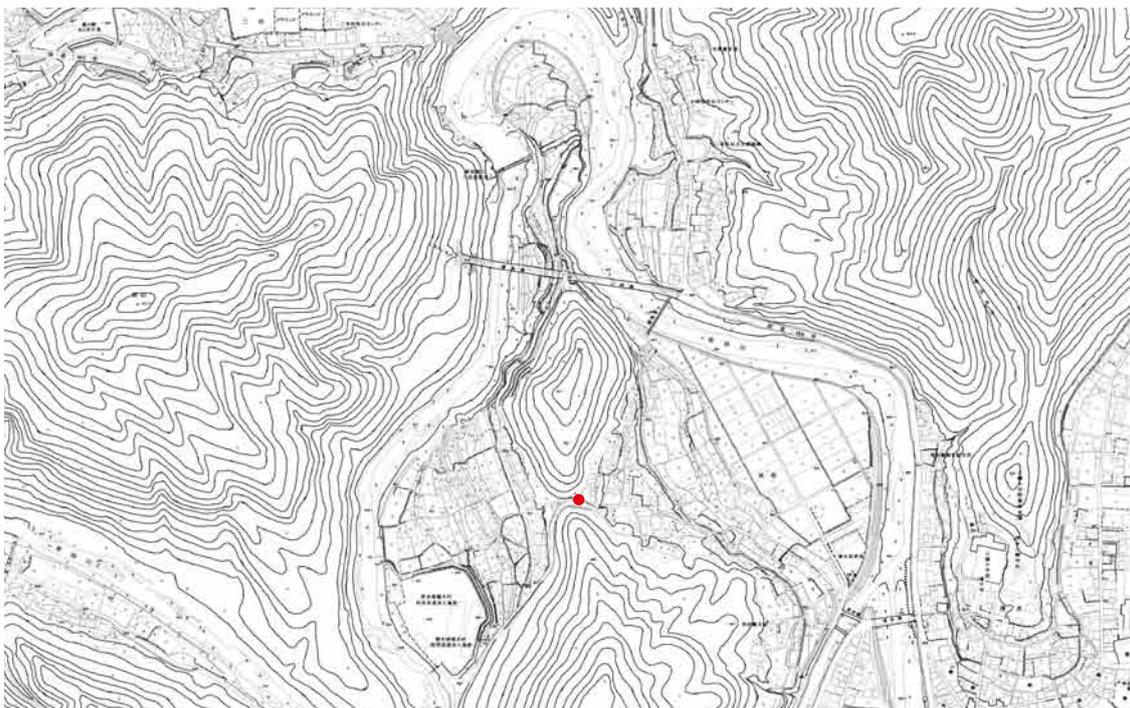
写真



位置図

名 称	フキの峠の地蔵		
員 数	一件	面 積	15.84㎡
所在地	有田川町大字清水字城山1844番地地先		
所有者	個人	管理者	清水西ノ原番
概要	城山の南麓にあり、西原を二分するフキの峠の頂上に建つ。中世の宝篋印塔と五輪塔が組み合わされた石塔1基と近世地蔵仏が祀られ、地元住民により地蔵として信仰されている。基壇は、緑泥片岩を用いた宝篋印塔の残欠で、類似するものが西原観音堂にも存在する。石造物の建つ位置は、中世段階の日常と非日常的な空間の境界にあたり、往時の空間構造を物語る遺物としても価値が高い。		
文化的景観との関係	西原地区の中世段階の開発を証明する要素であり、当地域の歴史を理解する上で重要な要素である。		

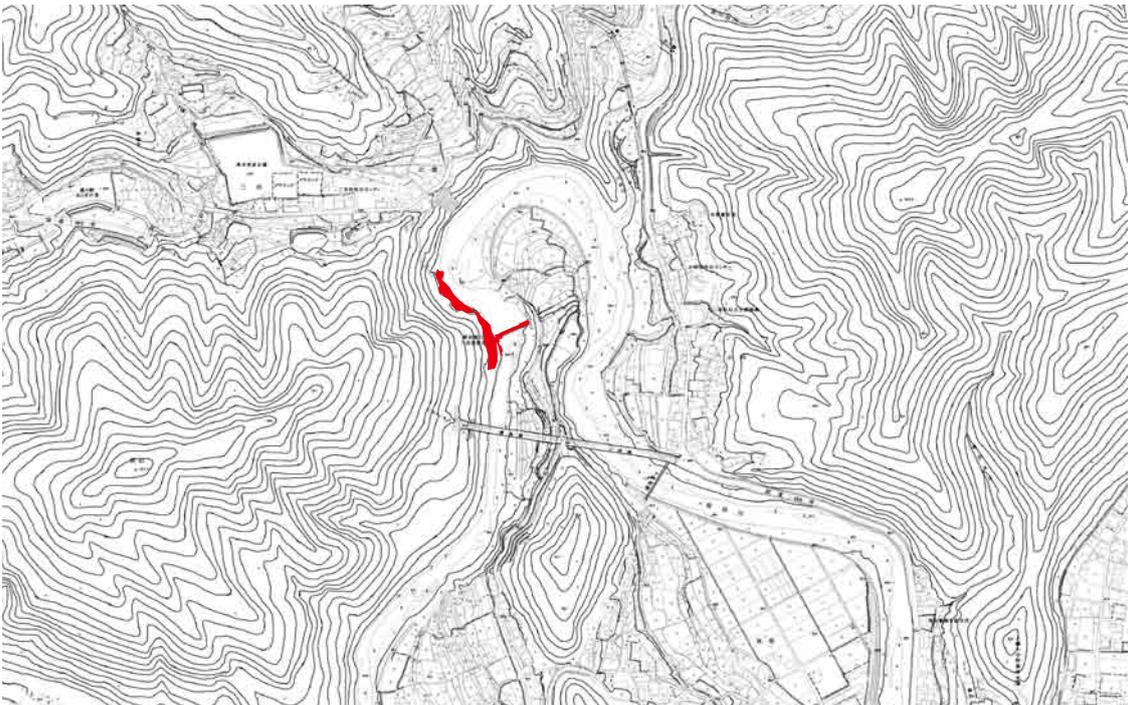
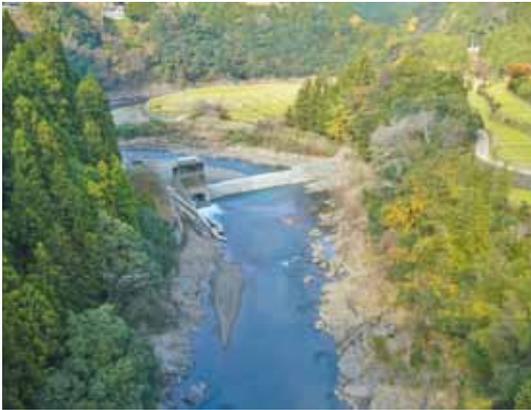
写真



位置図

名 称	関西電力三田水力発電施設		
員 数	一件	面 積	1,800㎡
所在地	有田川町大字三田字前山383番地2、385番地3・5、有田川河川内		
所有者	関西電力株式会社	管理者	関西電力株式会社和歌山支店
概要	<p>蘭島に隣接して構築された水力式発電施設。堰堤は石張りの重力式で、堤高2.7m、排砂口部分を除く全長は47.8mを測る。止水面はコンクリート造で、越流部は石張りである。堰堤の西側に取水口があり、そこから887mのトンネルを抜いて水槽へ至る。昭和4年（1929）10月完成で、有田川水系の関西電力関係施設では当時の形態を残す唯一の遺構。堰堤は当初のものとみられるが、排砂口や取水口については明らかではない。</p>		
文化的景観との関係	日本の電気事業が水力の時代として大きく発展した段階に建設された近代化遺産であり、人と自然の共生を示す重要な要素の一つである。		

写真



位置図